

The Japan Association of Radiological Technologists
ネットワーク・ノウ

Network

Now

2024 No.580

4/1

JART情報
<https://www.jart.jp>

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会
〒108-0073 東京都港区三田1-4-28
三田国際ビル22階
TEL. 03-4226-2211 FAX. 050-3153-1519



2023年度 第7回理事会 開催される (Web併催)

2024年2月24日(土)午後2時より、2023年度第7回理事会が日本診療放射線技師会事務所でWeb会議システムを併用して開催されました。冒頭、上田会長よりあいさつがあり、2024年初頭に起きた能登半島地震のお見舞いと、本会と近県技師会による支援について説明がありました。本会としても、個々の災害対応の必要性や長期的な支援について注視していきたいと述べられました。理事会で審議された主な議題を以下に記します。

上田会長からは、令和6(2024)年度事業計画案の総括ならびに主な事業10項目について説明がありました。①タスク・シフト/シェア推進②政策要望に効果ある調査活動の在り方検討③性腺防護シールド廃止の周知④組織率向上の方策と実施⑤職域団体・全国診療放射線技師教育施設協議会との連携強化⑥地区、地域との連携強化⑦分科会、委員会組織の見直し⑧生涯教育制度(ラダー)の推進およびe-ラーニング学習無料化⑨第40回日本診療放射線技師学術大会(第1回日本放射線医療技術学術大会(JCRTM))実施および第41回日本診療放射線技師学術大会準備⑩国際事業を通じてISRRTを支援。

審議の結果、全会一致で承認されました。

堀住事務局長からは、本会事務所移転の検討について、アスベスト問題や貸倉庫などの運用で現状では問題があること、移転先の賃料ならびに事務所の専有面積と付随する倉庫、職員の職場環境改善の必要性について説明がありました。審議の結果、賛成多数で承認されました。

江端業務執行理事からは、令和6(2024)年度予算計画(案)について、前項で承認された事務所移転プランに基づいた予算計画の説明がありました。審議の結果、全会一致で承認されました。

児玉副会長からは、第1回JCRTMの倫理審査および演題

登録について説明があり、演題区分の症例報告、実践報告の演題登録をする場合は、所属機関の長の許可が必要であることの説明がありました。審議の結果、全会一致で承認されました。

園田理事からは、第42回日本診療放射線技師学術大会の立候補(山形県)について説明がありました。審議の結果、全会一致で承認されました。

江藤副会長からは、能登半島地震で被災された会員のうち、被災者調査回答票の提出者は石川県16人、富山県1人、新潟県4人との報告がありました。義援金については、今回、急を要するとの判断で理事会承認前に募集開始となっており、すでに多くの会員から義援金の振り込みがあったとの説明がありました。義援金募集について審議の結果、全会一致で承認されました。

佐藤理事からは、聴覚障害者のための放射線部門におけるガイドラインについて、初版から14年が経過し、障害者差別解消法が令和6(2024)年4月から施行されるため、業務改善推進委員会で改訂・発刊を予定しているとの説明がありました。審議の結果、全会一致で承認されました。

この他に13議題の審議事項があり、審議の結果、いずれも全会一致で承認されました。

報告事項としては、災害対策委員会の界外理事から、令和6年能登半島地震の義援金の募集開始と、1月29日から2月9日までの12日間に、公立穴水総合病院に業務支援のため8人の診療放射線技師を派遣したことについて説明がありました。

また地域理事、各委員会などから34項目の報告がなされ、資料と共に共有されました。最後に、園田理事より今後のスケジュールが確認され、本理事会は終了しました。

詳細は、本会会誌に掲載される2023年度第7回理事会議事録(抄)をご参照ください。

「診療放射線技師へのタスク・シフト/シェアに関するガイドライン」の公開について

INFORMATION

このたび、診療放射線技師へのタスク・シフト/シェアに関するガイドラインを発表することとなりました。本ガイドラインは、日本医学放射線学会と日本放射線科専門医会・医会が中心となり、各医学会の先生方に協力を頂き作成されました。本ガイドラインを活用し、各医療施設で決められたプロトコルに沿って業務を行うことで、業務拡大に伴うリスクを低減し、安全にタスク・シフト/シェアの推進を実施されることを期待致します。

■ 放射線科医から診療放射線技師へのタスク・シフト/シェアのためのガイドライン集
(https://www.jart.jp/docs/ガイドライン_20240304__JARTJRSJCR.pdf)



目次

- 業務拡大で変わるCT造影検査を安全に行うための診療放射線技師のための手引き
- 業務拡大で変わるMRI造影検査を安全に行うための診療放射線技師のための手引き
- 業務拡大で変わる血管造影・IVRを安全に行うための診療放射線技師のための手引き
- 業務拡大で変わる核医学検査を安全に行うための診療放射線技師のための手引き
- 生命予後にかかわる緊急性の高い疾患の画像（STAT画像）所見報告ガイドライン
- 画像誘導放射線治療の臨床施行のためのガイドライン2022
（「業務拡大で変わるIGRTを安全に行うための手引き」に対応する内容を含む）



2023年度 がん均てん化事業における（生涯教育セミナー） 基礎コース 開催される（Web開催）

2024年2月4日（日）、標記セミナーがWebexを用いたWebセミナー形式で開催されました。

「放射線計測から放射線治療の安全・質の確保を学ぶ」をテーマに、初学者向けの講習会として企画・立案し開催したものです。これまで生涯教育セミナー（基礎編）として開催してきた、線量計測・計算に関する基礎講座に、本年度からは実践編と応用講座を企画し、各施設のモニター線量計校正に用いるワークシートから学ぶ「実践：水吸収線量計算ワークシートの紹介と解説」と「応用講座：第三者による出力線量評価」の講義を加えました。またこれまで行ってきた「高エネルギーX線の吸収線量評価」は基礎講座として継続し、MU計算に関する基礎講座は幅広く「独立検証」をテーマに講義を行いました。事前アンケートと共有フォルダーを活用した講義資料の配布を行い、関係者で綿密な打ち合わせを実

施したのちに講習会を開催しました。

当日のセミナーでは前述の4講演が行われ、89人の参加者からは事後アンケートで高い評価を頂きました。アンケートでは、Webセミナー継続の要望が多く寄せられており、今後は頂いた意見を基に、Webセミナーを軸としてさらに発展した内容を検討できればと考えています。

最後に、講師を務めていただいた大阪警察病院 田中義浩先生、兵庫医科大学病院 若山司先生、福島県立医科大学附属病院 岡善隆先生、座長を務めていただいた当分科会の畑中星吾委員、開催に当たり助言・協力を頂いた当分科会委員、および事務手続きなどをお手伝いいただいた日本診療放射線技師会の皆さまに、この場を借りて感謝申し上げます。

（放射線治療分科会 藤田医科大学 安井 啓祐）

2023年度 オートプシー・イメージング (Ai) 症例報告会 開催報告 (Web開催)

オートプシー・イメージング (Ai) 分科会 分科会長 阿部 一之

オートプシー・イメージング (Ai) (死亡時画像診断)における検査技術の向上と、画像所見チェックの精度向上を目指して、2023年度オートプシー・イメージング (Ai) 症例報告会を1) セミナー、2) ミニレクチャー、3) 各施設からの症例報告とコメントーターから解説していただく3部構成で開催しました。多くの会員に参加していただき有意義なイベントになりました。

●第1回オートプシー・イメージング (Ai) 症例報告会

2024年1月20日(土) 午後1時30分~4時30分、Web開催
(プラットフォーム: Cisco Webex Meetings)

事前参加登録者数74人、当日参加者数57人でした。第1部は「死後変化を学ぼう(1)(成人)」のテーマで、山本正二先生による死後変化の具体的な特徴について解説していただきました。第2部は「死後CT画像所見チェック実践講座」のテーマで、加藤勲会員(委員)に自施設での経験を踏まえて、死後CT画像チェックの手順や要点について講義していただきました。第3部は川角貴哉会員、萩田智明会員、加藤勲会員による症例の提示と画像所見について報告していただき、司会から指名された会員が、重要な画像所見やCT撮影・3D画像処理の技術的な問題点を指摘した後、報告者より解剖・病理診断・画像診断の結果を報告していただき会員との質疑応答を行い、コメントーターの山本正二先生からアドバイスを得て最終的な画像診断に至る過程を経験できたので、有意義

な症例報告会になりました。

●第2回オートプシー・イメージング (Ai) 症例報告会

2024年2月17日(土) 午後1時30分~4時30分、Web開催
(プラットフォーム: Cisco Webex Meetings)

事前参加登録者数27人、当日参加者数21人でした。

報告会では「死後変化を学ぼう(2)(小児)」のテーマで、小熊栄二先生による胎児から小児の死後変化の具体的な特徴の解説、ミニレクチャーは「当院での所見チェックをPACSに入力するシステムの紹介」のテーマで、田代和也会員(委員)から自施設における画像所見チェックシステムの特徴と経験、課題について講義していただきました。症例報告では佐々木保会員、田代和也会員による症例の提示と画像所見について報告していただき、第1回と同じ進行で行いました。小児のオートプシー・イメージング (Ai) を実施する施設は少なく、小熊栄二先生から貴重な症例報告を詳細に解説していただき、参加者ともども有益な症例報告会になりました。

参考資料として「死後CT読影チェックシート」がオートプシー・イメージング学会ホームページ https://plaza.umin.ac.jp/~ai-ai/data/ai_checksheets_2.pdf で入手できますので、ご活用ください。

本分科会として、オートプシー・イメージング (Ai) における画像所見チェックシステムの構築を今後ご提案致します。

表1 第1回オートプシー・イメージング (Ai) 症例報告会

セミナー 症例報告会・解説	山本 正二 先生	一般財団法人Ai情報センター 理事長	死後変化を学ぼう(1)(成人)
ミニレクチャー	加藤 勲	大垣市民病院(岐阜県)	死後CT画像所見チェック実践講座
症例報告(会員)	萩田 智明	新武雄病院(佐賀県)	
症例報告(会員)	川角 貴哉	島根大学医学部附属病院(島根県)	
症例報告(会員)	加藤 勲	大垣市民病院(岐阜県)	

表2 第2回オートプシー・イメージング (Ai) 症例報告会

セミナー 症例報告会・解説	小熊 栄二 先生	埼玉県立小児医療センター 副病院長	死後変化を学ぼう(2)(小児)
ミニレクチャー	田代 和也	筑波メディカルセンター病院(茨城県)	当院での所見チェックをPACSに入力するシステムの紹介
症例報告(会員)	田代 和也	筑波メディカルセンター病院(茨城県)	
症例報告(会員)	佐々木 保	群馬県立小児医療センター(群馬県)	
症例報告(医師)	小熊 栄二 先生	埼玉県立小児医療センター 副病院長	

2023年度 診療放射線技師基礎講習（会場型） 基礎技術コース「MRI検査」開催報告

一般社団法人群馬県診療放射線技師会
教育部長 米持 圭太

2024年2月11日（日・祝）、群馬県立県民健康科学大学多目的ホールにおいて、診療放射線技師基礎講習基礎技術コース「MRI検査」を開催しました。

昨年度に引き続き2年連続の開催となった本講習会は、群馬県を中心に、全国から44人（会員43人、非会員1人）にご参加いただきました。本講習会の内容は、基礎講習の学習目標に沿って、MR装置、基礎原理、パルスシーケンス、画像コントラスト、アーチファクト・造影剤、脂肪抑制、画像



評価・性能評価、安全管理について、講師の方々からとても分かりやすくご講義いただきました。講義終了後には、個別に講師に質問をする参加者もあり、参加者の積極性を感じることができました。磁気共鳴（MR）専門技術者認定取得を目指す方々にとっても有意義な講習会となったようです。大変お忙しい中、講師をお引き受けいただいた先生方に感謝致します。

群馬県診療放射線技師会として、今後もより多くの診療放射線技師にとって有意義な講習会を開催できるように、積極的に取り組んでいきたいと思っております。

告示研修 開催報告

新潟県

一般社団法人新潟県診療放射線技師会 副会長 金沢 勉

2024年2月17日（土）・18日（日）、新潟医療人育成センターにおいて、新潟県診療放射線技師会としては、通算16回目となる告示研修（実技）を行いました。両日合わせて89人の受講者となり全員が修了されています。新潟県の令和5年度はこれで全ての予定を終え、これまでの修了者は合計で589人となりました。県外からの受講者は20%程度おられますが、他県に比べると低い状況です。

コロナ禍の混乱の中、新潟県では初回を2021年3月として、全国でも早期に開催をしております。開催拠点を3カ所に設定し回数を重ねることで、例えば消耗品について融通し合いリスク管理がなされ、ファシリテーターの運用も含めスムーズに開催されています。

新潟県は南北に広く離島もあり、さまざまな要望を頂いております。今後はそれらの要望に少しでも応えられるように、努力をしていきたいと思っております。



大阪府

公益社団法人大阪府診療放射線技師会 会長 藤田 秀樹

大阪府診療放射線技師会(大放技)では、年間8回の告示研修(実技)を開催しています。今回は2024年2月23日(金)・24日(土)の2日間で、会場は大阪府済生会中津病院施設内の、昨年まで看護学校だった教室と体育館をお借りしています。建物が古いためエアコンが十分効かず、夏は暑く冬は寒いですが、それでもアクセスが良いこともあり、府外からの参加者が多く見られます。できれば統一講習会の修了者同様に、開催地の会員が優先して申し込みできるように検討していただけると幸いです。



大放技にはファシリテーターが20人在籍していますが、1カ月前まで勤務が確定しない施設もあり、講師やスタッフを含め毎回10人の選任に苦労しています。ファシリテーターは全員が全ての実技指導を担当できるようにしていますが、課題は講師(監督者)をお願いできる方が少ないことで、各施設でタスク・シフト/シェアを進めていく必要があると感じています。

引き続き、タスク・シフト/シェアの推進に貢献できればと考えています。



診療放射線技師のためのフレッシューズセミナーのお知らせ

プログラムは、エチケット・マナー・医療安全・感染対策・気管支解剖・胸部撮影基礎(都道府県により違いあり)など、現場ですぐ役立つ知識です。会員・非会員を問いません。

日程と会場については変更される可能性がありますので、詳細は、都道府県技師会までお問い合わせください。

■フレッシューズセミナー開催予定: 群馬 4月21日(日) 佐賀 4月27日(土)

INFORMATION

4月・5月の講習会などスケジュールのご案内

■放射線被ばく相談員講習会: Web開催 2024年5月26日(日)
※このご案内の公開時に、定員に達して申し込みができない講習会・セミナーがある場合がございますのでご了承ください。

■告示研修(実技研修)/業務拡大に伴う統一講習会/診療放射線技師基礎講習 基礎技術コース(会場型):
本会ホームページの「ニュース・お知らせ」またはJART情報システム(JARTIS)をご参照ください。

【e-ラーニング(ストリーミング方式)】

■告示研修(基礎研修) 2026年3月31日(火)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日から告示研修終了まで何度でも視聴いただけます。

■人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針オンラインセミナー 2027年3月31日(水)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日からセミナー終了まで何度でも視聴いただけます。

INFORMATION

JART求人広告掲載について

会誌に掲載する診療放射線技師募集の求人広告を随時受け付けております。申込書ならびに募集要項につきましては、本会ホームページ(各種様式→その他)よりダウンロードしてご確認ください。

なお、掲載月の前月5日が掲載申し込みの締め切りとなっております。

INFORMATION

第64回東海四県診療放射線技師学術大会 開催報告

公益社団法人愛知県診療放射線技師会
副会長 山本 和也

2024年2月4日(日)、「診療放射線技師の知識とスキルを更新する」をテーマに、名古屋市のミッドランドホールで第64回東海四県診療放射線技師学術大会を開催致しました。皆さまのおかげをもちまして、大会運営スタッフの予想をはるかに上回る272人のご参加を頂き、盛会に行われました。

最初に、愛知県診療放射線技師会の水口仁会長による本大会に参加された先生方への感謝のあいさつで始まり、会員発表では、東海四県でご活躍されておられる4人の会員により「はじめの一歩～基礎から応用まで～」と題する、モダリティー別の新人教育にも役立つ分かりやすい発表が行われました。

特別講演では、名古屋掖済会病院 救命救急センター長 救急科部長 後藤縁先生より「明日の撮影に役立つ!? 救急診療における画像検査のポイント」と題して、救急医療に携わる診療放射線技師に必要な知識や技術についてご講演を頂きました。



特別講演 後藤縁先生

ランチョンセミナーでは、「X線撮影アプリケーションの最新情報」をテーマに株式会社島津製作所さまからお話いただき、その後、2施設の先生方から装置の使用経験についてお話しいただきました。



会場風景

基礎講演では、「日本診療放射線技師会が推進するSTAT画像報告ガイドラインについて」と題し、日本診療放射線技師会STAT画像報告委員会 赤井亮太委員より、われわれが目指すSTAT画像報告について多くの情報をご提示いただきました。また東海四県の各施設の代表者によるシンポジウム「STAT画像報告への取り組みを学ぶ」では、今後の医療分野における診療放射線技師の在り方について、活発な意見交換が行われました。

最後に、次回開催地・岐阜県の加藤秀記会長より、開催へ向けての意気込みが感じられるあいさつで本大会は終了となりました。参加されました皆さまからは、「他の施設の取り組みがよく理解でき、今後の課題が見つかった!」「自分もいつか大会で発表したい!」「久しぶりに同級生と会えてよかった!」など、貴重なコメントもたくさん頂きました。今後も多くの皆さまに参加していただける企画・運営に努めてまいります。

また本大会に関わっていただきました多くの企業さま、ならびに会員の皆さまに多大なるご支援を頂き、心から感謝申し上げます。本大会が、次回2025年2月16日(日)岐阜県開催につながる大会になったものと確信し、開催報告とさせていただきます。

本会への入会手続きについて (お知らせ)

ホームページからでも、書類でも・・・本会への入会は、次のいずれかの方法によりお手続きいただけます。

- ❶ 本会ホームページ (<https://www.jart.jp>) から“新規入会”をクリック
- ❷ 書類のご提出

書類のご提出によるお手続きの場合は「申込書」を本会事務局までご請求ください。

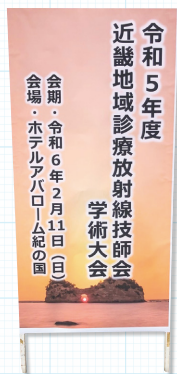
TEL : 03-4226-2211 E-mail : info@jart.or.jp

ぜひ周りの非会員の方に、お知らせください。

INFORMATION

令和5年度 近畿地域診療放射線技師会 学術大会 開催報告 (ハイブリッド開催)

一般社団法人和歌山県放射線技師会
副会長 栗山 翔太



2024年2月11日(日・祝)に「診療放射線技師の新時代～求められる診療放射線技師～」をテーマに、和歌山市のホテルアパローム紀の国で令和5年度近畿地域診療放射線技師会学術大会(2023 Kinki Conference of Radiological Technologists)を開催致しました。オンデマンドについては2月21日(水)から3月24日(日)までの配信期間となりました。参加人数は会場で192人、オンデマンドで40人程度となりました。

本年10月末に日本診療放射線技師会と日本放射線技術学会が、初めて合同で学術大会を開催することは周知の通りですが、同じ診療放射線技術を中心として両会が緊密な連携を取り合うことが期待されており、この大会は両会会員が放射線技術学の発展に寄与できる学びとなるよう、参加費を同額としています。

近畿地域診療放射線技師会学術大会は、近畿2府4県が持ち回りで協力し合いながら開催する学術大会です。本大会は一般演題23題、JART会長による教育講演、特別講演、放射線管理士分科会企画、ランチョンセミナー、JARTシンポジウム、実行委員会企画、業務改善推進委員会企画、県民公開講演会など、盛りだくさんのプログラム構成となりました。

JARTシンポジウムでは、テーマを「タスク・シフト/シェアを導入するためのKnow-how～どう進めれば始められますか?～」と題し、タスク・シフト/シェアを始められていない施設が、どのようにすれば始められるのかという悩みを解決していく内容とし、導入している施設と情報を共有し、大きな一歩を踏み出すためのヒントが得られるシンポジウムとなりました。

実行委員会企画では、日本診療放射線技師会の川守田龍学術担当理事をお招きし、「ラダーを取り入れた生涯教育制度促進」についてご講演を頂き、令和4年度から日本診療放射線技師会が導入している新生涯教育システムについて、他の医療職団体も導入しているラダーシステムを用い、クリニカルラダー・マネジメントラダーの2本立ての運用に関する新生涯教育システムの考え方、現在利用できる範囲、最新のシステム状況についての説明と紹介をしていただきました。



実行委員

業務改善推進委員会では、本年度で最後となる委員会企画として「ノンテクニカルスキル」をテーマに、教育に苦慮するコミュニケーション能力・チームワーク力・状況認識能力などについて、さまざまな規模の施設の意見を聞くことができました。

特別講演では、医療法人明星会 星野クリニックの星野好則院長より、大腸CT検査(CT colonography: CTC)の基本操作や前処置の重要性、CTCの導入から下剤やタギングの工夫、診療放射線技師と診断士の関わり方、CTCの展望についてご講演いただきました。

県民公開講演会では、和歌山県ゆかりの道成寺 小野俊成院主をお招きし、「時を超える力 道成寺の1800年のあゆみ」をテーマに、国指定史跡でもある道成寺の歴史をご紹介していただき、安珍と清姫の物語をユーモアたっぷりに絵とき説法していただきました。

本大会では国際交流イベントも開催し、大会前日にソウル市放射線士会から朴会長を含め4人の参加者と共に、南紀白浜観光を行いました。



国際交流イベント(白浜観光)

最後に、本大会にご参加いただいた皆さま、協賛いただいたメーカーさま、そして近畿地域理事の後藤吉弘会長をはじめ、近畿地域でご協力いただきました皆さま方に、深く感謝申し上げます。

INFORMATION

第5回 第1回日本放射線医療技術学術大会 (1st JCRTM)

第40回日本診療放射線技師学術大会 (40th JCRT)

第52回日本放射線技術学会秋季学術大会 (52nd Autumn Scientific Congress of the JSRT)

沖縄への道 Go To OKINAWA

運営委員 石原 敏行

(一般社団法人沖縄県放射線技師会 常務理事 広報担当)



沖縄本島は大きく3つのエリアに分かれ、これまでに南部エリアと中部エリアを「沖縄への道 Go To OKINAWA」で紹介させていただきました。今回、最後のエリアとなる北部のお薦め観光スポットと、北部までの交通手段などを紹介させていただきます。

沖縄屈指の観光スポットでもある、世界トップクラスのサイズを誇る大水槽の**美ら海(ちゅらうみ)水族館**。見どころは、沖縄の沖合の海流を再現した巨大水槽「黒潮の海」。ジンベエザメやナンヨウマンタなど、大型の海の生き物が悠々と泳ぎ回る姿を間近に眺められ、1日3回開催される「**給餌プログラム**」では、生き物たちが餌を食べる迫力満点の様子が見られます。自然の美しさと生き物たちの神秘的な世界が堪能できます。

次に、世界遺産「**琉球王国のグスクおよび関連遺産群**」の一つである**今帰仁城(なきじんじょう)跡**。かつて沖縄本島北部を統治した北山(ほくざん)が暮らしていた城です。北部のいわゆる「やんばる」を守る要の城として13世紀頃に築城され、石灰岩を積み上げて造られた城壁の長さはおよそ1.5km。首里城にも匹敵するスケールです。薩摩藩の琉球侵攻に伴い1665年に廃城されましたが、祭礼を執り行う場所として残され、現在も人々の心のよりどころとしての役割を果たしています。

最後に、沖縄本島最北端の**辺戸(へど)岬**をご紹介します。晴れた日にはコバルトブルーの海の向こうに、鹿児島島の与論島まで望むことができます。かつてアメリカ合衆国統治下において本土に最も近い場所であったことから、本土復帰を願い、のろしを上げた地として「**祖国復帰闘争碑**」が建てられています。那覇空港から辺戸岬までおよそ120km。所要時間は、沖縄自動車道を利用した場合2時間半、一般道で約3時間かかります。時間を要しますが、最北の果てのドライブの先には、やんばるの雄大な自然と沖縄屈指の絶景が待っています。

この他にも、沖縄海岸国定公園の**万座毛(まんざもウ)**、沖縄の文化体験や伝統衣装体験ができる**琉球村**など、心を動かす絶景や観光スポットが数多く点在しています。ぜひこの機会に、沖縄ならではの体験をしていただき、全身で沖縄の魅力を感じてほしいと思います。

さて、沖縄で移動手段を考えるとときに思い浮かぶのがレンタカー、またはバスやタクシー・モノレール。しかし、意外と知られていない移動手段に「**高速船**」があります。移動手段とアクティビティーが一緒になった「一石二鳥」な二次交通としてお薦めです。



高速船「ジンベエ・マリン タクマ3」

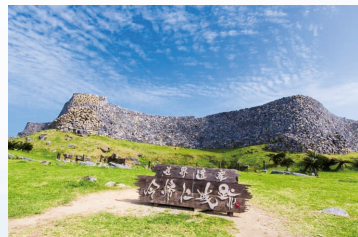
2019年就航、「新しい旅のスタイル」として登場した、那覇港と名護港・本部町渡久地港(もとぶちょうとぐちこう)を海上から結ぶ交通手段です。那覇から名護・本部間を75分で結ぶ**高速船「ジンベエ・マリン タクマ3」**は海路なので渋滞もなく、スムーズに目的地までアクセス可能となっています。途中、景勝地「**残波(ざんば)岬**」や「**瀬底(せそこ)大橋**」を海から眺め、運が良ければイルカやクジラにも遭遇できるかもしれません。冒頭でお薦めした「**美ら海水族館**」や「**フクギ並木**」へのアクセスにも最適なので、ぜひご利用ください。



限られた滞在時間ではございますが、美しい海や世界遺産など、見どころ満載のリゾート地「沖縄」をこの機会に満喫していただければと思っております。有意義な学術大会になるよう実行委員一同努めてまいりますので、多くの方のご参加をお待ちしております。



美ら海水族館



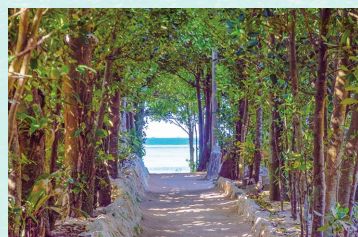
今帰仁城跡



辺戸岬の祖国復帰闘争碑



琉球村



フクギ並木

JCRTM2024

第1回 日本放射線 医療技術学術大会

第40回日本診療放射線技師学術大会
第52回日本放射線技術学会秋季学術大会

会場 沖縄 コンベンションセンター
会期 2024年 10月31日(木) ~ 11月3日(日)



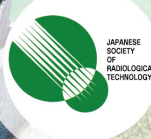
ゆいまーる

診療放射線技術の共創
All Japan
Radiological Technology



JART

■ 大会長：上田 克彦
■ 実行委員長：富田 博信



JSRT

■ 大会長：白石 順二
■ 実行委員長：奥田 保男

【お問い合わせ先】 第1回 日本放射線医療技術学術大会運営事務局

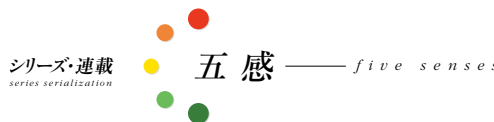
所在地：株式会社リンクージ沖縄内 〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜 2-8-8-2F

TEL：050-3666-2460 / FAX：098-890-1921 / E-mail：jcrtm2024@linkage-okinawa.co.jp

HP：https://www.linkage-okinawa.co.jp/jcrtm2024



余白のチカラ



ある新聞に「余白のチカラ」というエッセーが連載されている。タイトルの「手紙で予約 郷愁の宿」が目にとまり、このネット全盛期の時代に、手紙で予約！ どういう事！ 興味本位で読んでみた。

雪深い岩手県の民宿「苦屋」^{くみや}。六十半ばのご夫婦が営む民宿にはインターネットも電話もないため、宿泊予約するには手紙かはがきを送るほかなく、旅は一通の手紙をしたためるところから始まるという。

ご夫婦は、独身時代にお互いが気ままに海外を巡る旅を続け、その時の連絡手段は次の目的地の郵便局へ手紙を出し受け取るという方法であった。返事が返ってくるまでのワクワク感を楽しんだ経験から、民宿を始める時にも「手紙を送り合った楽しさを、便利さと引き換えに手放すのは惜しい」と電話も引かず、客とは手紙でやり取りすることにしたそうである。

一方、最近よく耳にする「タイパ」とは、タイムパフォーマンス

(時間対効果)の略。効率を求めてタイパを気にする傾向は各世代で広がっているようで、特に若者世代では、映画や動画を倍速で見る「時短視聴」^{はやく}が流行っているようである。セリフの間や視線、景色から、主人公の心情や情景をくみ取ることが映画の楽しみの一つと思っている世代では考えられない視聴方法である。

ある大学教授は、「現代人は自由な時間が欲しくて便利さを求めたが、かえって忙しくなった」と分析した。

民宿の奥さんは、宿泊予約の文面から「どんな人が来るのかしら」と想像を巡らせ、会うまでの時間が楽しくなるという。電話やインターネットではやり取りが速過ぎて、その楽しみが失われる。効率と幸せは必ずしも比例しないと。

私も定年まで残り1年を切った今日この頃。いまだに毎日バタバタしているが、せめて定年後は時間や効率を気にせず、人生の余白を楽しみたいものである。(文責：界外 忠之)

「令和6年能登半島地震」の災害における義援金の募集について

INFORMATION

令和6年能登半島地震により犠牲となられた方々にお悔やみを申し上げるとともに、被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

本会では、この地震による災害について1月11日に激甚災害に指定されたことから、下記の通り義援金の募集を実施しております。ご賛同いただけます方は、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. 義援金募集の目的

令和6年能登半島地震に起因する、日本診療放射線技師会会員の人的被害および会員が主として居住する家屋の損壊に対する支援を目的とします。

2. 義援金配布先

2024年4月30日(火)までに、都道府県(診療)放射線技師会会長より本会災害対策委員長へ通知のあった被災会員を対象とし、配布額は本会規程により決定します。

3. 義援金募集期間

2024年1月24日(水)から4月30日(火)まで

4. 義援金受入れ口座

銀行名：りそな銀行 芝支店
口座番号：普通口座 1569223
口座名：公益社団法人日本診療放射線技師会支援金受付

5. 備考

募集した義援金のみを対象とし、救援物資などの募集は致しません。

令和6年能登半島地震で被災された皆さまの会費免除について

INFORMATION

令和6年能登半島地震により被害を受けられた皆さまに、謹んでお見舞い申し上げます。

この地震により、ご自身またはご自宅が被害を受けられた会員の皆さまにおかれましては、規程にのっとり次年度以降の会費免除の申請を行うことができますので、「被災者調査回答票」に被害状況を記入の上、必要書類等を添えて所属地区技師会までご提出ください。



B03_会費等納入規程
B03-01_会費等納入に関する細則
<https://www.jart.jp/process/teikansyokitei.html>



「被災者調査回答票」
<https://www.jart.jp/process/youshiki.html>

※「フレッシュアーズセミナーのお知らせ」「4月・5月の講習会などスケジュールのご案内」は5ページに掲載しています。

事務所案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。
ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日(7月13日)および年末年始(12月29日~1月3日)は執務致しません。